

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年3月17日

【四半期会計期間】 第39期第3四半期(自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日)

【会社名】 株式会社菊池製作所

【英訳名】 KIKUCHI SEISAKUSHO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菊池 功

【本店の所在の場所】 東京都八王子市美山町2161番地21

【電話番号】 042-651-6093 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 岸田 俊邦

【最寄りの連絡場所】 東京都八王子市美山町2161番地21

【電話番号】 042-651-6093 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 岸田 俊邦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期 連結累計期間	第39期 第3四半期 連結累計期間	第38期
会計期間	自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日	自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日	自 平成24年5月1日 至 平成25年4月30日
売上高 (千円)	4,117,459	4,195,902	5,674,656
経常利益又は経常損失() (千円)	14,946	153,128	180,959
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (千円)	13,606	100,122	122,611
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	126,450	8,158	311,649
純資産額 (千円)	5,249,038	5,368,947	5,434,204
総資産額 (千円)	7,935,970	8,480,844	8,284,900
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失() (円)	3.68	27.09	33.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	66.1	63.3	65.6

回次	第38期 第3四半期 連結会計期間	第39期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年11月1日 至 平成25年1月31日	自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	22.40	35.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第38期および第38期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第39期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間において、東京理科大学より支援を受け「マッスルスーツ」を商品化すべく、「株式会社イノフィス」を設立いたしました。「マッスルスーツ」を初めとする技術シーズを抽出し、商品化の可能性、商品化に向けた技術開発の補完を通じ、技術的情報及びマーケティング戦略・商品戦略を企業へ提供することを目的として新規設立しております。

この結果、平成26年1月31日現在では、当社グループは、当社及び子会社3社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、経済政策や金融政策の効果を背景に、円安・株高が進行し、企業収益の改善が見られる等、景気は穏やかな回復傾向となりました。また、新興国の一部で成長鈍化が見られたものの米国経済の堅調な動きに加え、欧州経済の持ち直しの兆しがみられたこと等により、全体として穏やかな回復景気となりました。

一方で円安の進行による原材料価格の上昇など国内景気の下振れ懸念があり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループ製品が属する情報通信機器、精密電子機器業界におきましては、多様な技術革新の必要性は変わらず、新製品への開発投資は一部製品において抑制傾向があるものの、依然として継続されております。当社グループは、これらメーカーを顧客として、新規開発の試作品製造や新製品の量産製造を推進しており、自社一括一貫体制による、プロダクトデザイン、機構設計、金型製作、成形、加工にわたる製造工程と、「匠の技」と先端設備の融合による技術力をベースに、事業活動を展開しております。取引先の要求を満たしうる技術水準、品質、納期に対し、より一層の対応力を涵養することにより、メーカーからの信頼性を確保し、競合他社との差別化を徹底する事業戦略を遂行しております。

このような状況のもと、当社グループ製品の売上高及び受注の状況は、携帯電話、デジタルカメラ等の情報通信機器、精密電子機器メーカー、並びに複写機、プリンタ等の事務機器メーカーの研究開発及び生産の状況等厳しい経営環境を受け、新規開発試作品製造、金型製造、量産品製造全般で低水準での推移となりました。一方、介護・医療機器、新エネルギー関連分野において、ユニット・装置単位の受注が増加してきております。また、中長期的な当社事業の成長に資するための研究開発活動として、マイクロフローデバイス技術や自立支援装具等をはじめとした介護・医療ロボットの研鑽に積極的に取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高4,195百万円(前年同四半期比1.9%増)となり、利益面につきましては、売上総利益は567百万円(同12.3%減)、営業損失230百万円(前年同四半期は営業損失120百万円)となりました。以下、東日本大震災に係る東京電力株式会社からの受取補償金、スクラップ売却収入、受取配当金等の営業外収益133百万円(同31.8%減)を加算し、二本松工場遊休賃借費用、シンジケートローン手数料及び支払利息等の営業外費用55百万円(同8.2%減)を減じた結果として、経常損失は153百万円(前年同四半期は経常利益14百万円)となりました。

福島県川内村に新設しました工場に要した費用の一部として当初の予定通り福島県川内村からの補助金を受領し、特別利益115百万円を計上し、その受領した補助金を固定資産圧縮損として特別損失に104

百万円計上いたしました。これに税金費用 42百万円を計上した結果、四半期純損失は100百万円(前年同四半期は13百万円の四半期純利益)となりました。

なお、平成24年6月6日に発表いたしましたとおり、当社オリジナル技術であるアルミホットダイカスト技術による量産品製造工場を福島県川内村に新設いたしました。当該工場開設に要した費用460百万円のうち、115百万円につき当初の予定通り、福島県川内村からの補助金を平成25年5月に受領しましたので、前述の通り、第1四半期連結会計期間で圧縮記帳の処理を実施いたしました。尚、残額については、今後、福島県への完了報告後補助金が受領となる見込みであり、当該補助金受領後、圧縮記帳をする予定です。

セグメントの概況を示すと、次のとおりです。

試作・金型事業

携帯電話、デジタルカメラ等の情報通信機器、精密電子機器メーカーを顧客としておりますが、一部企業の新機種開発への投資が低水準に留まり、当社業績も厳しい展開となりました。この結果、売上高は2,800百万円(前年同四半期比1.3%増)、営業損失270百万円(前年同四半期は120百万円の営業損失)となりました。

量産事業

携帯電話等の情報通信機器メーカーならびに事務機器メーカーの一部製品の生産活動が低調に推移したものの、当社業績は前年並みの受注を確保でき無難な推移となりました。この結果、売上高1,352百万円(前年同四半期比0.3%増)、営業利益50百万円(同870.9%増)となりました。

その他

ガンマカメラ関連事業及びヘルスケア製品の販売等により、売上高は43百万円(前年同四半期比770.4%増)、営業損失11百万円(前年同四半期は5百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産に関する事項

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、8,480百万円となり、前連結会計年度末比195百万円の増加(前連結会計年度末比2.4%増)となりました。うち、流動資産は、3,912百万円となり、前連結会計年度末比111百万円の増加(同2.9%増)となりました。これは、現金及び預金が189百万円増加(同15.9%増)したことが主な要因となっております。固定資産は4,568百万円となり、前連結会計年度末比84百万円の増加(同1.9%増)となりました。

負債合計は、3,111百万円となり、前連結会計年度末比261百万円の増加(前連結会計年度末比9.2%増)となりました。うち、流動負債は、2,451百万円となり、前連結会計年度末比62百万円の増加(同2.6%増)となりました。これは、短期借入金が100百万円増加(同8.3%増)したことが主因となっております。固定負債は、660百万円となり、前連結会計年度末比198百万円の増加(同42.9%増)となりました。これは、長期借入金が175百万円増加(同183.0%増)したことが主因となっております。

純資産は、5,368百万円となり、前連結会計年度末比65百万円の減少(同1.2%減)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は136百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年3月17日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,695,900	3,695,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は 100株であります。
計	3,695,900	3,695,900		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年11月1日 ~ 平成26年1月31日	-	3,695,900	-	358,434	-	252,594

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,694,600	36,946	
単元未満株式	普通株式 1,200		
発行済株式総数	3,695,900		
総株主の議決権		36,946	

(注) 1 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式 4 株が含まれております。

2 当第3四半期会計期間末現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年1月31日

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行株式 総数に対する 所有株式数 の割合(株)
(自己保有株式) 株式会社菊池製作所	東京都八王子市美山 町2161番地21	100		100	0.0
計		100		100	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年11月1日から平成26年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成26年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,196,774	1,386,642
受取手形及び売掛金	1,862,426	1,899,991
商品及び製品	90,963	223,929
仕掛品	113,139	116,435
原材料及び貯蔵品	153,472	169,634
繰延税金資産	-	36,169
その他	385,765	94,646
貸倒引当金	1,040	14,846
流動資産合計	3,801,500	3,912,601
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,265,743	2,482,450
減価償却累計額	976,752	1,043,072
建物及び構築物(純額)	1,288,991	1,439,378
機械装置及び運搬具	2,733,590	2,854,112
減価償却累計額	1,474,045	1,707,160
機械装置及び運搬具(純額)	1,259,545	1,146,952
土地	985,483	990,296
リース資産	4,705	4,767
減価償却累計額	3,759	3,973
リース資産(純額)	945	793
建設仮勘定	86,100	-
その他	454,048	517,800
減価償却累計額	236,358	337,421
その他(純額)	217,689	180,378
有形固定資産合計	3,838,755	3,757,800
無形固定資産		
ソフトウェア	25,829	20,031
その他	4,735	9,191
無形固定資産合計	30,565	29,223
投資その他の資産		
投資有価証券	510,803	663,599
繰延税金資産	2,320	2,424
その他	105,545	197,950
貸倒引当金	4,591	82,754
投資その他の資産合計	614,079	781,219
固定資産合計	4,483,399	4,568,242
資産合計	8,284,900	8,480,844

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	499,318	527,566
短期借入金	1,200,000	1,300,000
1年内返済予定の長期借入金	98,244	143,792
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払金	321,995	196,630
未払費用	105,479	91,921
未払法人税等	39,270	56,096
賞与引当金	58,453	53,045
繰延税金負債	16,850	-
その他	28,840	62,337
流動負債合計	2,388,451	2,451,390
固定負債		
社債	10,000	-
長期借入金	96,061	271,830
退職給付引当金	9,367	10,052
役員退職慰労引当金	297,036	303,414
資産除去債務	8,118	8,193
繰延税金負債	26,928	52,338
その他	14,732	14,677
固定負債合計	462,244	660,506
負債合計	2,850,695	3,111,897
純資産の部		
株主資本		
資本金	358,434	358,434
資本剰余金	252,594	252,594
利益剰余金	4,826,289	4,652,250
自己株式	86	86
株主資本合計	5,437,231	5,263,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	146,822	228,810
為替換算調整勘定	149,849	123,556
その他の包括利益累計額合計	3,027	105,253
少数株主持分	-	500
純資産合計	5,434,204	5,368,947
負債純資産合計	8,284,900	8,480,844

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
売上高	4,117,459	4,195,902
売上原価	3,469,623	3,628,006
売上総利益	647,835	567,895
販売費及び一般管理費	768,018	798,818
営業損失()	120,182	230,922
営業外収益		
受取利息	136	149
受取配当金	8,577	10,455
助成金収入	20,868	8,697
スクラップ売却収入	27,517	23,056
受取補償金	126,720	75,356
その他	11,984	15,758
営業外収益合計	195,803	133,473
営業外費用		
支払利息	6,956	8,967
シンジケートローン手数料	7,531	7,041
設備賃借費用	363	363
二本松工場遊休賃借費用	32,652	32,652
その他	13,171	6,654
営業外費用合計	60,674	55,680
経常利益又は経常損失()	14,946	153,128
特別利益		
固定資産売却益	-	153
受取補償金	38,299	-
補助金収入	-	115,000
特別利益合計	38,299	115,153
特別損失		
固定資産除却損	152	-
投資有価証券評価損	799	132
固定資産圧縮損	-	104,232
特別損失合計	952	104,364
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	52,293	142,340
法人税、住民税及び事業税	11,051	16,928
法人税等調整額	27,635	59,146
法人税等合計	38,686	42,217
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	13,606	100,122
四半期純利益又は四半期純損失()	13,606	100,122

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	13,606	100,122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	64,164	81,988
為替換算調整勘定	48,679	26,292
その他の包括利益合計	112,844	108,280
四半期包括利益	126,450	8,158
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	126,450	8,158
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
連結の範囲の重要な変更 第3四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社イノフィスを連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)
減価償却費	276,923千円	400,127千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月26日 定時株主総会	普通株式	73,916	20.00	平成24年4月30日	平成24年7月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成26年1月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月25日 定時株主総会	普通株式	73,915	20.00	平成25年4月30日	平成25年7月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成25年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	試作・金型事業	量産事業				
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	2,764,438	1,347,995	5,024	4,117,459	-	4,117,459
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,031	-	-	1,031	(1,031)	-
計	2,765,470	1,347,995	5,024	4,118,491	(1,031)	4,117,459
セグメント利益又は 損失()	120,201	5,230	5,373	120,345	162	120,182

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ヘルスケア製品の販売等です。

2. セグメント利益又は損失の調整額162千円は、過年度のセグメント間取引に係る未実現利益実現等によるものです。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成26年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	試作・金型事業	量産事業				
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	2,800,117	1,352,054	43,730	4,195,902	-	4,195,902
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	975	-	-	975	(975)	-
計	2,801,093	1,352,054	43,730	4,196,877	(975)	4,195,902
セグメント利益又は 損失()	270,127	50,784	11,662	231,005	82	230,922

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガンマカメラ関連事業及びヘルスケア製品の販売等です。

2. セグメント利益又は損失の調整額82千円は、過年度のセグメント間取引に係る未実現利益実現等によるものです。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成26年1月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	3円68銭	27円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	13,606	100,122
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	13,606	100,122
普通株式の期中平均株式数(株)	3,695,841	3,695,796

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 3月17日

株式会社菊池製作所
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山	本	哲	也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	栗	田	涉		印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社菊池製作所の平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年11月1日から平成26年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成26年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社菊池製作所及び連結子会社の平成26年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。